

6月の市算研ニュース

今月の市算研

- 各学年部会 研究広報委員長による実践提案と研究協議が行われました。
- 算数指導法基礎講座
- 幹事研修会 杉山浩太郎先生（深谷台小）の関プロ大会提案について検討しました。

算数指導法基礎講座

～6月「話し合いをいかにまとめていくか」～



＜参会者の声＞

- 次の授業をどうしていくかを考えることができよかった。板書を考えることで、授業の流れ、中心発問、切り返し方が見えて勉強になった。
- 授業研で行う単元だったので、とても参考になった。

今回は「子どもが意欲的に取り組める課題提示の工夫」です。

幹事研修会

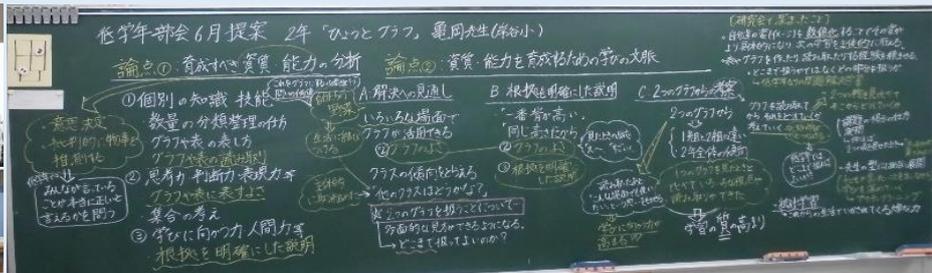
「速さ」杉山浩太郎先生（深谷台小）

8月10日に行われる第71回関東都県算数・数学教育研究（静岡）大会の提案について検討しました。



昨年度神数連で提案された実践をブラッシュアップしての提案です。今年度の市研の研究内容を踏まえ、資質・能力の育成に視点を当てることで課題となりました。

低学年部会の様子「ひょうとグラフ」亀岡亜由子先生（岸谷小）



＜提案の内容＞

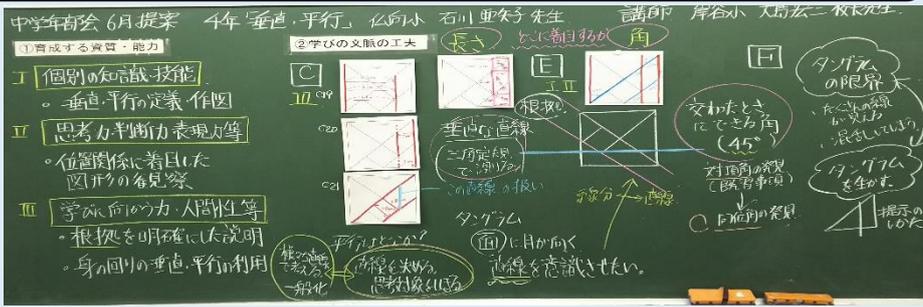
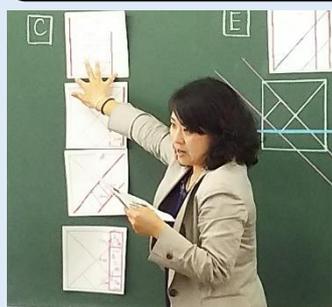
- 1つのグラフではなく、2つのグラフを見比べながら話し合う活動を通して、グラフから読み取ったことを説明する際に、根拠を大切にしながら説明する能力を育てる。
- それぞれのグラフから分かったことを組み合わせることはどんなことか考える中で、物事を多面的に見ようとする態度を育てていく。

＜意見・今後の課題＞

- 子どもたちが何を身につけるのかを明確にしたい。グラフを見比べて、そこから何が得られるのか、というところまで見通した授業にすると資質能力の育成につながる。
- 「どこまでやるか」ではなく「どこを切り取った授業をするか」を大切に、子どもがもっていた思いを考え、子どもの反応から子どもと紡いでいく授業をつくりたい。

低学年部会担当：高橋建太（上末吉小）

中学年部会の様子「垂直・平行」石川亜矢子先生（仏向小）



< 提案の内容 >

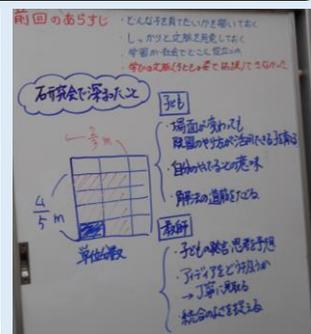
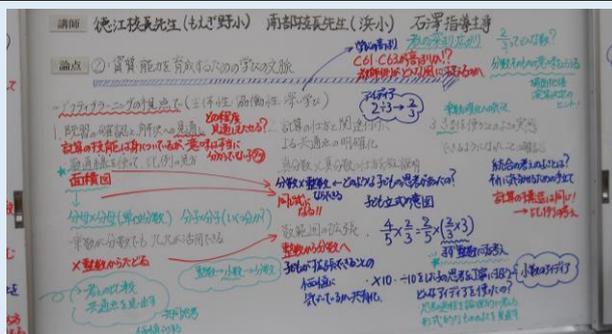
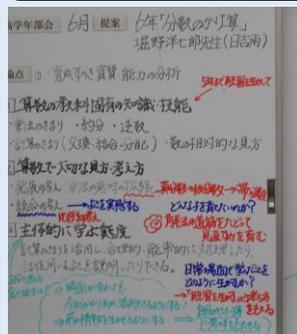
- 子どもが慣れ親しんでいて興味をもちやすいタングラムの操作や観察から、直線の位置関係に着目させた。
- 2直線の幅や同位角の測定活動で分かったことをもとに、曖昧な捉えになりがちな平行の性質について根拠を明確にして説明する力を育成しようとした。

< 意見・今後の課題 >

- タングラムは面に目がいき直線が見えにくいので、身近なものを取りあげたことで学びの必然性があった。提案性があった。
- 全員が同じでなく各自が選んだ2直線について調べたことで、どの平行でも言える性質を学べた。
- 主体的学びから対話的学びにつなげるためにさらに工夫が必要である。

中学年部会担当：小口さやか（汐見台小）

高学年部会の様子「分数のかけ算」堀野洋七郎先生（日吉南小）



< 提案の内容 >

- 円の面積や、小数のかけ算の学習で数直線を用いたことなど既習事項を想起させ、見通しをもって自力解決できるようにした。
- 小数のかけ算で学習した内容や計算のきまりをいかしたり、数直線や面積図と関連づけて課題解決を行うことで、合理的・能率的に処理するよさ、きまりを用いるよさに気付き、説明するように展開を工夫した。

< 意見・今後の課題 >

- 学習場面が変わっても既習の方法を活用できる子を育てることが意識されていた。
- 自分がやっていることの意味を理解することが、学びに向かう力を育てるうえで大切である。そのために解法の道筋を授業の終わりに振り返ったことに価値がある。
- 統合することのよさをとらえるにはさらに工夫があるとよい。

高学年部会担当：西川浩二（釜利谷東小）